

医療人類学入門

科目責任者 松 岡 佐 知
 学年・学期 1 学年・1 学期

I. 前 文

医療は、個別性のある人間に科学的知見を適用する実践であり、その特徴から不確実さから逃れることはできない。また、患者の判断や希望は、医学的には不合理であることもある。高齢化による慢性疾患の増加や情報化の影響により、治療に関わる要素が増え「不可解さ」は複雑化している。このような困難や葛藤を抱えた現場で、医療者はどのように対処したらいいのだろうか。

医療人類学では、疾病や人の身体（遺伝子、免疫系など）を固定的に捉えるのではなく、社会や文化という環境と身体とのダイナミックな相互作用のひとつの結果として病気や健康があると考ええる。

本講義では、医療人類学の理論を参照しながら、生老病死に関わる日本や世界の様々な事例・症例について実際に議論・検討することを通して、文化・社会性を帯びた生活者として患者を捉える社会科学的な視点を培い、実践としての医療の多様性やその明瞭な正答のなさについて体験的に理解することを目的としている。

II. 担当教員

松 岡 佐 知

III. 一般学習目標

- ・社会科学的な着眼点、多角的なものの捉え方を身につける。
- ・医学と医療の違いについて理解する。
- ・実践としての医療の多様性について理解する。
- ・文化・社会性を帯びた生活者として患者を捉える視点を培う。
- ・自分にとっての「常識」や「正しさ」がどのように構築されてきたかについて考える。
- ・状況に応じて自分の思考を更新できる柔軟な思考力を養う。
- ・明瞭な正答のない課題について、学術的に思考し、言語で説明する力を養う。

IV. 学修の到達目標

医学モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）に含まれる以下内容に沿って本講義は構成されている。

SO-04: 社会の構造や変化から捉える医療

医療は社会の一部であるという認識を持ち、経済的な観点・地域性の視点・国際的な視野等も持ちながら、公正な医療を提供し、健康の代弁者として公衆衛生の向上に努める。

SO-05: 国内外の視点から捉える医療

国内及び国際社会の中で規定される医療の役割と医療体制について概要を理解している。

SO-06: 社会科学の視点から捉える医療

医学的・文化的・社会的文脈のなかで生成される健康観や人びとの言動・関係性を理解し、社会科学（主に医療人類学・医療社会学）の視点・理論・方法から、それを臨床実践に活用することができる。

学修目標：

- ①医療人類学や医療社会学等の行動科学・社会科学の基本的な視点・方法・理論を概説できる。
- ②病気・健康・医療・死をめぐる文化的な多様性を説明できる。
- ③自身が所属する文化を相対化することができる。
- ④人々の暮らしの現場において病気・健康がどのようにとらえられているかを説明できる。
- ⑤人の言動の意味をその人の人生史や社会関係の文脈の中で説明することができる。

- ⑥文化・ジェンダーと医療の関係を考えることができる。
- ⑦国際保健・医療協力の現場における文化的な摩擦について、文脈に応じた課題を設定して、解決案を提案できる。
- ⑧社会をシステムとして捉えることができる。
- ⑨病人役割を概説できる。
- ⑩対人サービスの困難（バーンアウトリスク）を概説できる。
- ⑪経済的側面や制度的側面をふまえた上で、医療現場の実践を評価できる。
- ⑫在宅療養と入院または施設入所との関係について総合的な考察ができる。
- ⑬多職種の医療・保健・福祉専門職、患者・利用者、その家族、地域の人々など、様々な立場の人が違った視点から医療現場に関わっていることを理解する。
- ⑭具体的な臨床事例に文化・社会的課題を見いだすことができる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
 2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション
 6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
1	4	30	水	5	オリエンテーション：なぜ医学部で医療人類学を学ぶのか	松 岡 佐 知	
2	5	7	水	5	病人の役割：なぜあの患者は入退院を繰り返すのか	松 岡 佐 知	2
3		14	水	5	不定愁訴：検査しても問題がない患者とどのように向き合ったらいいのだろうか	松 岡 佐 知	2
4		21	水	5	人の言動と意味：なぜ精密検査を拒むのか	松 岡 佐 知	2
5		28	水	5	多元的ヘルスケアシステム：補完代替医療とはなんだろうか	松 岡 佐 知	2
6	6	4	水	5	小児の糖尿病：なぜこの子は学校では過量投与してしまうのか	松 岡 佐 知	2
7		11	水	5	医療専門職の苦悩：患者と同じ人間である医師が医療に従事すること	松 岡 佐 知	2

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

毎回の講義への出席態度（20%）、毎回のミニレポート（40%）及び最終レポート（40%）の内容によって評価する。

VII. 教科書・参考図書・A V 資料

飯田淳子・錦織宏 編「医師・医学生のための人類学・社会学」ナカニシヤ出版

VIII. 質問への対応方法

随時、メールを受け付ける。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

適宜、必要に応じてフィードバックする。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

各講義で適宜指示を出す。

XII. コアカリ記号・番号

SO-04（-01，-02，-06，-07）

SO-05（-01）

SO-06（-01）